



## 「雨ニモマケズ」 のモデルになった人

### Part 1

日本で最も知られている詩の一つに宮沢賢治の「雨ニモマケズ」があります。日本人であれば誰もが学校で習い、知っている詩です。しかし、この詩のモデルになったと言われている人の事をご存知でしょうか？それは齊藤宗次郎という人です。

(写真左：新聞配達をする齊藤宗次郎  
右：宮沢賢治)



一八七七年、齊藤宗次郎は岩手県花巻の禅宗の寺の三男として生まれました。彼はやがて小学校の先生となり、一時、国粹主義に傾くのですが、やがてふとしたきっかけで、聖書を読むようになりました。一九〇〇年、彼は洗礼を受けてクリスチャンになりました。花巻で第一号のクリスチャンです。

しかし、これはキリスト教がまだ「耶蘇教」「国賊」などと呼ばれて、人々から激しい迫害を受けている時代のことです。洗礼を受けたその日から、彼に対する迫害が強くなりました。町を歩いていると、「ヤソ、ヤソ」とあざけられ、何度も石を投げられました。それでも彼は神を信じた喜びにあふれて、信仰を貫いていました。しかし、いわれのない中傷が相次ぎ、ついに彼は小学校の教師の職を辞めなければならないはめになってしまいます。また迫害は彼だけにとどまらず、家族にまで及んでいきました。

長女の愛子ちゃんはある日、国粹主義思想が高まる中、ヤソの子どもと言われて腹を蹴られ、腹膜炎を起こしてしまいます。数カ月後、彼女はわずか九歳という若さで天国に帰って行きました。葬儀の席上、讃美歌が歌われ、天国の希望のなか平安に彼女を見送りましたが、愛する子をこのようないわれなきことで失った齊藤宗次郎の心情は、察するに余りあります。

彼はその後、新聞配達をして生計をたてるようになります。朝三時に起き、汽車が着くたびに何度も駅に新聞を取りに行き、雨の日も風の日も、大風呂敷を背負って駆け足で配達をするという生活でした。新聞配達が終わった後に宮沢賢治が勤めていた花巻農学校に立ち寄り、賢治と話し合うようになりました。

(Part 2に続く)